

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370938

研究課題名(和文)先住民文化の普及と保護に果たす映像メディアの役割に関する応用映像人類学的研究

研究課題名(英文) Applied visual anthropological study on the roles of visual media for the promotion and protection of indigenous cultures

研究代表者

分藤 大翼 (BUNDO, Daisuke)

信州大学・学術研究院総合人間科学系・准教授

研究者番号：70397579

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、カメルーン共和国東部州の熱帯雨林地域に暮らすBakaという先住民を対象に、文化の普及と保護に果たす映像メディアの役割を明らかにするものである。その上で、「参加型映像制作」という手法を用い、先住民ならびに現地の協力者と共に、撮影、編集、上映、討論を積み重ねた。その結果、先住民文化の伝統的な側面を映像によって記録し、保護を実現するとともに、近年の諸問題について上映会を通じて議論を喚起し、認識を普及させるという成果を得た。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the roles of visual media for the promotion and protection of cultures of the indigenous people, the Baka, living in the rainforest area of eastern province of Cameroon. The research was conducted by using "participatory video" which is a collaborative approach to work with the Baka people, the Bakas' associations and Cameroonian researchers in making videos, screening them and discussing their issues. As a result, I obtained what is the important aspects of the traditional cultures to protect and the current issues to be informed and resolved.

研究分野：映像人類学

キーワード：カメルーン共和国 先住民文化の保護 参加型映像制作 応用映像人類学

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、1996年よりアフリカのカメルーン共和国東部州の熱帯雨林地域に居住するバカ(Baka)という先住民の調査研究をおこなっている。特に、科学研究費補助金・若手研究(B)に採択された平成17-19年度は「ポスト狩猟採集社会における文化変容に関する人類学的研究」という課題で研究を進め、その一環としてバカ族の文化の現状を映像によって記録し、国内外の映画祭や学会で発表した。研究代表者は、先住民社会の文化変容を解明するなかで、森林の商業伐採や鉱物資源の採掘などによって先住民の生活環境が破壊されつつあることや、自然保護の政策によって先住民の狩猟活動が制限されていることを知り、先住民文化を普及し保護する必要性を強く感じるようになった。そして、その上で研究代表者がこれまでに行ってきた人類学的な研究と、映像制作の経験を活用する方法を考えるに至った。

この着想は2000年代に入って本格化している「応用映像人類学(applied visual anthropology)」という分野の研究に基づいている[Pink 2008]。この分野は、2007年の「先住民の権利に関する国際連合宣言」に象徴される先住民問題への国際的な関心の高まりとも連動する形で発展している。とりわけ近年では、映像メディアを活用した先住民運動の可能性と課題が注目され、欧米では盛んに議論されている[Wilson & Stewart 2008]。

以上の状況を受けて、研究代表者は2011年3月と2012年8、9月に、バカ族の先住民組織において映像制作のワークショップを実施し、カメルーン社会においてバカ族が抱える課題と、先住民組織の取り組みを紹介する短編作品を制作した。また、ワークショップを通じてカメルーンの映像作家、研究者と共同し、協力関係を築くことで、さらなる研究の準備を整えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、映像メディアを活用した先住民運動のモデルを構築することである。その上で、第一に先住民組織や先住民の集落において参加型の映像制作を実施し、保護すべき先住民文化を先住民とともに検討し、映像によって記録し作品化する。第二に先住民文化を普及させるために映像作品の上映会・討論会をカメルーンの国内外で実施し、さらにインターネット上でも公開する。これらの研究実践を通じて、先住民文化の普及と保護に果たす映像メディアの役割を明らかにする。

一般に映像人類学的な映像作品は研究者が独自に作品を制作するが、本研究は対象となる人々とともに制作する「参加型の映像制作」を実施するところに特色がある。参加型の映像制作は、近年さまざまなコミュニティ活動を開発・支援する目的で盛んになってきているが、先住民文化の普及と保護を目的

とする活動はまれである。映像表現の「分かりやすさ」を活用し、現地において対象となる人々とともに制作し、その成果を共有し、先住民文化の普及と保護に役立てるというところが本研究の狙いである。

本研究によって、これまでは一方向的に描かれる側だった先住民が、自らの活動や生活文化を映像メディアを使って描く側に立ち、自分たちの権利を自ら主張できるようになり、そのことによって、自らの置かれている状況への見識が深まり、より適切な活動が行えるようになること。また、その上で必要な研究者、映像作家とのネットワークが構築されることによって、本研究が現地の人々によって引き継がれ、共同作業が持続的に実施されることが期待できる。さらに成果をカメルーン国内外における上映会を通じて発表し議論を喚起し、インターネットなどのメディアを使って成果を公開することによって、国際的な議論を生み、新しい先住民運動のモデルと先住民文化の普及と保護に資する映像メディアの活用法を創出し、応用映像人類学の先端的な研究として、また開発の取り組みの事例として、学術、実践の両面において国際的な議論を喚起することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) インターネット上の動画配信サービスを利用して、前年度までに制作した、バカ族の先住民組織を紹介する動画を公開する。そうすることで、先住民組織がインターネット上の動画をどのように活用するのか、また外部の組織や一般の人々がどの程度に関心を持つのかということを探る。

(2) 学会や映画祭で成果を発表することを通じて、映像メディアを活用した先住民文化の普及の可能性と課題を検討する。また、保護する必要がある先住民文化や、これから制作する研究作品のテーマを選定する。

(3) カメルーン共和国における現地調査を実施し、映像作品をバカ族の集落や関係する組織や市民のもとで上映し、視聴者と議論し、映像メディアを活用した先住民運動の可能性と課題を明らかにする。

4. 研究成果

研究成果は、次の3点にまとめることができる。国際学会・国際映画祭における民族誌映画の上映・発表。共編著『フィールド映像術』の出版。カメルーン共和国における現地調査。

については、研究代表者が制作した先住民文化を描いた民族誌映画(記録映画)を国際人類学民族科学連合の研究大会において、またドイツのゲッティンゲンで開催された国際民族誌映画祭において上映・発表を行う

た。『jo joko』というタイトルの本作は、バカ族の文化を 2002 年から映像によって記録してきた研究の成果であり、食文化を中心にまとめたことにより、セルビア共和国で開催された第 22 回国際民族学映画祭では、UNESCO 南東ヨーロッパ無形文化財保護地域センター特別賞を授与されている。これらの研究活動を通じて、研究者が独自の視点で制作する映像も、先住民文化を普及させる上で有効であることが確認できた。

については、フィールドワークにおいて映像を活用している 14 名の研究者が、それぞれの分野で実践している映像術について寄稿したものである。研究代表者は本書の編集を担当し、自身の論文として「結びつける力 参加型映像制作の実践」と題する論考を執筆した。この論文は応用映像人類学の国際的な動向と呼応しながら、本研究課題による独自の取り組みを広く一般にも報告するものとなっており、映像メディアを活用した先住民運動の一つのモデルを提示するものとなっている。

本稿では、映像制作とは、「打ち合わせ、撮影、編集、上映、討論」という過程の総体であり、その取り組みは、人々が出会い、関係を築き、共に生きてゆくという過程を劇化するという。また、映像制作にたずさわることによって、人々は非日常的な経験を通じて日常的な事柄に対する認識を新たにすること。そして、それらの経験を通じて、自分やまわりの人々に対する新たなイメージを持ち、そのイメージによって新しい人間関係、共同体や社会を作ることになることを指摘し、参加型の映像制作が社会を変容させる可能性と課題を示唆した。

については、2015 年 2 月にカメルーン共和国において現地調査を実施した。バカ族の集落や先住民組織、カメルーンの研究者を対象に、これまでに制作した映像作品の上映会を実施し、先住民組織の活動の仕方について、また今後の研究・制作における共同について議論を行った。

本調査を通じて明らかになったことは、上映会を開催することによって、多くの人々が一堂に会し、映像を視聴することで、普段は口にしないような意見を述べるということであった。特に先住民組織のスタッフは上映会における討論に強い手ごたえを感じており、今後も継続することで先住民文化の普及と保護が進むとの見解を述べた。この現地における上映・討論というスタイルに対して、インターネットを活用した活動については、先住民組織のスタッフは消極的であるということが分かった。理由の一つは、インターネットによる外部組織とのつながりは不確かなものであり、組織としては、バカ族の共同体の内部で、着実に現状認識を広めてゆきたいということだった。

また、作品の内容については、先住民の窮状を訴えるものや先住民組織の活動を紹介する作品よりも、先住民の伝統的な生活文化を描いた作品の方が、総じて観衆の反応が良く、その後の話し合いも活発になるという現象が見られた。この結果からは、今後制作する映像作品は、先住民文化における伝統的な部分を大切にしつつ、人々が楽しんで視聴できるような内容のものにする必要があるということが分かった。それは、記録映画であるよりは、むしろ劇映画のスタイルで制作された作品の方が、先住民文化の普及と保護に資するものになる可能性があることを示唆している。これは、応用映像人類学という本研究分野において新しい展開となるだろう。

< 文献 >

S, Pink ed. Visual Interventions: Applied Visual Anthropology, Berghahn Books. 2008
P, Wilson & M, Stewart eds. Global Indigenous Media, Duke University Press. 2008

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 4 件)

分藤大翼、森の狩猟民と動物のいのち、第 21 回 ASLE-Japan / 文学・環境学会全国大会、2015 年 8 月 22 日、安藤百福自然体験指導者養成センター(長野県小諸市)

Daisuke Bundo, jo joko, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter-Congress 2014, 2014 年 5 月 18 日、幕張メッセ(千葉県)

Daisuke Bundo, jo joko, 17th International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter-Congress, 2013 年 8 月 6 日, The University of Manchester (UK)

分藤大翼、カメルーン先住民運動に関する応用映像人類学的研究 - 先住民組織における参加型映像制作の実践 -、日本文化人類学会第 47 回研究大会、2013 年 6 月 8 日、慶應義塾大学(東京都)

〔図書〕(計 1 件)

分藤大翼 他、古今書院、フィールド映像術、2015、212

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.youtube.com/user/emboamboa>
https://www.youtube.com/channel/UCHA0xJceP3GC_sfoxhvjfw

6 . 研究組織

(1)研究代表者

分藤 大翼 (BUNDO, Daisuke)

信州大学・学術研究院総合人間科学系・
准教授

研究者番号：70397579